

# 令和元年度和歌山県文化功労賞

みやもと かつ ひろ  
宮本 勝浩

住 所 大阪府泉南市  
出身地 和歌山県和歌山市  
生 年 昭和20年

## ◎ 業績及び経歴

昭和20年和歌山市に生まれる。昭和43年大阪府立大学経済学部を卒業し、大阪大学大学院経済学研究科修士課程に進んだ。その後、同大学院博士課程に進学するも、中途退学し、同年大阪府立大学経済学部の助手となり、平成3年に教授、平成17年には公立大学法人大阪府立大学理事・副学長に就任。平成18年関西大学大学院会計研究科教授就任。専門分野は、国際経済学、理論経済学、産業関連分析、経済効果の分析である。

最初の著書である、「分権的経済計画と社会主義経済の理論」は分権的経済計画について数理的分析を記した本邦初の書物である。

昭和58年には、ハーバード大学のロシア研究所の研究員として、中央集権的社會主義計画経済と分権的経済の比較を数学モデルを用いて行った。その研究成果は後年、著書や論文となり、社会主義から資本主義へ移行する経済における数理分析は世界でも非常に少なく、高い評価を受けた。それらの業績により、平成12年に神戸大学より経済学博士号を授与された。

近年、氏は「経済効果」の分析を通じて、経済学の啓蒙活動に力を注いでいる。

平成15年の「阪神優勝の経済効果」を発表したのを機に、その後観光、スポーツ、イベントなどの経済効果を次々に発表し、日本中に「経済効果」の用語を広めた。現在も、国、地方自治体、業界団体、マスコミなどの依頼により、毎年多くの経済効果を計算し発表している。

本県に関するものとして平成20年に和歌山貴志川電鉄の猫「たま駅長の経済効果」、平成27年に「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」の経済効果を発表した。

経済学者として、これまで誰も研究していなかった分野の分析に注力するとともに、多くの国民に「経済効果」という言葉を広め、経済学の楽しみを教え、関心をひきおこした氏の功績は誠に多大である。

## ■ 現 在

- ・ 経済学者
- ・ 大阪府立大学名誉教授
- ・ 関西大学名誉教授